

| | |
|---------|-------------|
| 氏名 | 谷口 かおり |
| 学位の種類 | 博士（看護学） |
| 学位記番号 | 第4号 |
| 学位授与年月日 | 令和7年3月19日 |
| 審査委員 | 主査 教授 橋本 龍樹 |
| | 副査 教授 古賀 美樹 |
| | 副査 教授 津本 優子 |

論文審査の結果の要旨

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが農業従事者のメンタルヘルスに及ぼす影響について、コロナ感染症前と後による首尾一貫感覚（Sense of Coherence; SOC）がその影響に対する役割について検討した研究である。このパンデミックによって国民すべてが様々なストレスを受けたが、会社員などの感染リスクとなる三蜜が避けられない職業と比較して、農業従事者は屋外の広い空間で作業に従事するため、比較的三蜜を避けられる環境ではあるが、ウイルス感染のリスク以外にも、農業従事者に与えるストレスについてアンケート調査によって明らかにしている。

その結果、心理的ストレスにおいては、コロナ前後で有意に増加しており、特に30～69歳の現役世代において特にストレスが増加していることが分かった。一方、70歳以上の年齢においてはコロナ前後の変化を認めなかった。ストレス指標に影響を与えている因子について、多変量解析より、「感染による差別や嫌がらせ」と「医療サービスの受けづらい不安」が有意な正の影響を及ぼしてしていた。想定された「仕事や収入が減る不安」による影響については統計学的に有意な影響を認めることはなかった。一方、64歳以下の農業従事者にとってのストレスとして、「マスク着用のストレス」が高く、65歳以上では、「感染による差別や嫌がらせ」が高かった。農業に従事していない群では、嫌がらせ以外に「旅行やレジャーに行けない」がストレスの要因となっていた。本研究の研究対象者が特定の間ドック受診者であったため、男女比に偏りがあり、すべての農業従事者に当てはまる考察にはなっていない部分もあるが、パンデミックの影響を受けにくいとされていた農業従事者も、その他の職種と同様にストレスを受けていたことが明らかになった。また、農業従事者の多くは高齢者であり、農業従事者に対して高齢者と同様のSOCを高める支援が重要になることを明らかにした。よって本論文は本学大学院医学系研究科博士後期課程の論文に値するものと判断する。